

職業奉仕部門セミナーに参加して

畝 徳治

29年11月21日(火)埼玉グランドホテル深谷で開催された第4グループ分科会に出席。
第4グループ内8クラブの代表、地区の部門委員長 武田哲氏、副委員長・第4G担当
大野修司氏、地区副幹事 田邊弘司氏が出席。

今回の議論に限定しないで、ロータリーの奉仕理念について私見を整理した。

奉仕とは「思いやりの心をもって他人のために尽くすこと」

他人のために尽くすとは言っても、日本の武士道で勧める滅私奉公とは異なる。

なぜなら、「最も奉仕する者、最も報われる」をモットーとしているように、人間の欲望を肯定している。

ロータリークラブは、取引相手のことをお互いに思いやろうとする志から始まった。

近江商人の3方良しが最も近い理念である。これが職業奉仕と呼ばれる。

この理念を安定して継続させるため、クラブの存続を期待してクラブ奉仕の概念が発現。

奉仕の相手を順次拡大させ、それに伴い全体を次のように分類した。

ロータリーの奉仕の分類は、尽くす相手の近さによる。相手が近い順に、次のようになる。

- | | |
|----------|--------|
| ①クラブ内 | ⇒クラブ奉仕 |
| ②取引相手 | ⇒職業奉仕 |
| ③国内地域の人達 | ⇒社会奉仕 |
| ④国外地域の人達 | ⇒国際奉仕 |
| ⑤将来世代の人達 | ⇒青少年奉仕 |

上記分類で②取引相手だけが金銭を貰う関係にある。①は相手が外部に存在しない。

ロータリーの奉仕理念は、思いやりの心をもって取引を行い(4つのテストで表明)、
そこで得た金銭・能力を取引相手以外の様々な人達にも提供しようとする理念である。
思いやりの表現は、労務の提供や金銭・物品の提供がある。

ロータリアンとは何ですか？と問われれば、「(利害関係が相反する)取引相手に
さえ思いやりをもって接することのできる人達です。」が答。

ロータリークラブとは何ですか？には、「上記のような人達の団体です。」が答。

大きな金銭を他人に提供したとしても、その入手方法が公正でなければ、ロータリー
の職業奉仕理念に反する。寄付だけが目標になってはいけない。

「職業奉仕」の概念が世界的にも乱れている。

「職業」の意味は、日常の次の使い方と同じである。(辞書の説明を文末に引用。)

「あなたの職業は何ですか？」

この質問は、「あなたは何をしてお金を手にいれていますか？」と言う意味。

即ち、「職業とはお金を稼ぐこと」、

「職業奉仕とは、お金を稼ぐ場面でさえ思いやりをもって相手に尽くすこと」の意味。

《「職業」の意味》

デジタル大辞泉より

1.職業

生計を維持するために、人が日常従事する仕事。生業。

世界大百科事典 第2版より

1.職業

われわれの社会では、人は日々なんらかの仕事をして、それによって報酬を得て生活の資としている。そうした仕事を職業という。毎日仕事をするといっても、趣味や道楽で...する仕事、主婦の行う家事や育児、ボランティア活動などは職業とはいわない。

《 職業奉仕についての近頃の議論に対する私見例 》

- ☆ 友Vol.65No.1横組みP-14に「職業奉仕」はロータリーの根幹か？ に大いに疑問がある。本田氏は次のように言っている。
「職業奉仕」という言葉が存在しなかった時代のアーサーF.シェルドンの「Serviceの哲学」を「職業奉仕」で語ったり、Vocational Serviceという言葉から天職論や職業倫理の要素だけを協調して語ったりする議論は、ちょっと強引・・・
それこそ本末転倒で、Serviceの哲学・理念が先にあって、これらを人々に説明するために「職業奉仕」なる言葉を作ったと考えるべき。そして職業奉仕なる言葉は取引の場を示す適切な言葉だと思う。
日本にロータリーが導入されたのは1920年、職業奉仕という言葉が使われたのは1927年以降とのことであり、日本人がロータリーに引かれたのは理念であって言葉ではない。
日本と世界が異なるなら、日本の特長を世界に知らしめるためにこそロータリーを活用すべき。

- ☆ 友Vol.65No.3縦組みP-13に「光る職業奉仕 漁業に貢献」が掲載されている。
これこそ職業奉仕だと思う。

- ☆ 友Vol.65NO.5縦組みP-16に本田氏に反論する文章がある。
大之木氏と内良氏に全く同感である。
佐藤千壽氏の説として大之木氏が引用する、「職業奉仕が中心にあり、そこから四部門の奉仕の輪が広がり、……」は、幹を中心に枝葉を広げた木に似ている。
職業奉仕は、ロータリーを支える幹。
幹無くして枝葉無し、職業奉仕無くしてロータリー無し。

- ☆ 職業奉仕に、「自己の職業上の手腕を社会問題やニーズに役立てる・・・」を含めると職業奉仕の理念が不明確になり、反対である。(Vol.65 No.5内良氏に同感)
本文の「……」が社会奉仕であることは明白。

- ☆ 友Vol.65No.8縦組みP-18に桑原氏が奉仕とサービスについて述べている。
その文の最後の段落に示しているように、ロータリーの奉仕の分類基準は、奉仕の技法ではなく奉仕の対象。

- ☆ 当地区で進めている高校生社会体験活動支援は、社会奉仕に含めるべき。
細井年度からこれを青少年奉仕から外したのは支持するが、職業奉仕は頂けない。
無理に職業奉仕に入れると、支援をして報酬を得ているように見える。